

## ■2024年度 日本活断層学会論文賞

【受賞者】相山 光太郎・福地 亮・林崎 涼・加藤 和浩・金折 裕司

【論文名】山口県北東部、大原湖—弥畠山西断層系に属する長門峡断層の活動性

【掲載誌】活断層研究、56号、13頁～31頁

### 【選考理由】

本論文は、断層露頭調査、トレーナー調査、およびボーリング調査に基づき、山口県北東部に分布する長門峡断層の活動性および運動像を初めて明らかにしたものである。断層露頭調査の結果、長門峡断層が未固結堆積物からなる地層を切断していること、カタクレーサイトでは左横ずれの、断層ガウジでは右横ずれの変位センスが認められることなどが明らかになった。これらのこととはそれぞれ、長門峡断層が第四紀以降に活動したこと、中国地方の他の北東—南西走向の断層と同様に、左横ずれ運動から右横ずれ運動に反転したことを示している。また、トレーナーおよびボーリング調査の結果、長門峡断層は4500年前以降に2回、13万年前から6800年前の間に少なくとも2回活動したことが示された。本論文の方法論はオーソドックスなものではあるが、調査結果の綿密な記載により、極めて高い再現性を有する論文であると評価できる。考察の部分も、活動時期と活動間隔について慎重に議論されており、長門峡断層の活動性の評価に資する貴重な情報を提供している。

以上の理由より、一般社団法人日本活断層学会の2024年度論文賞を授与するものである。